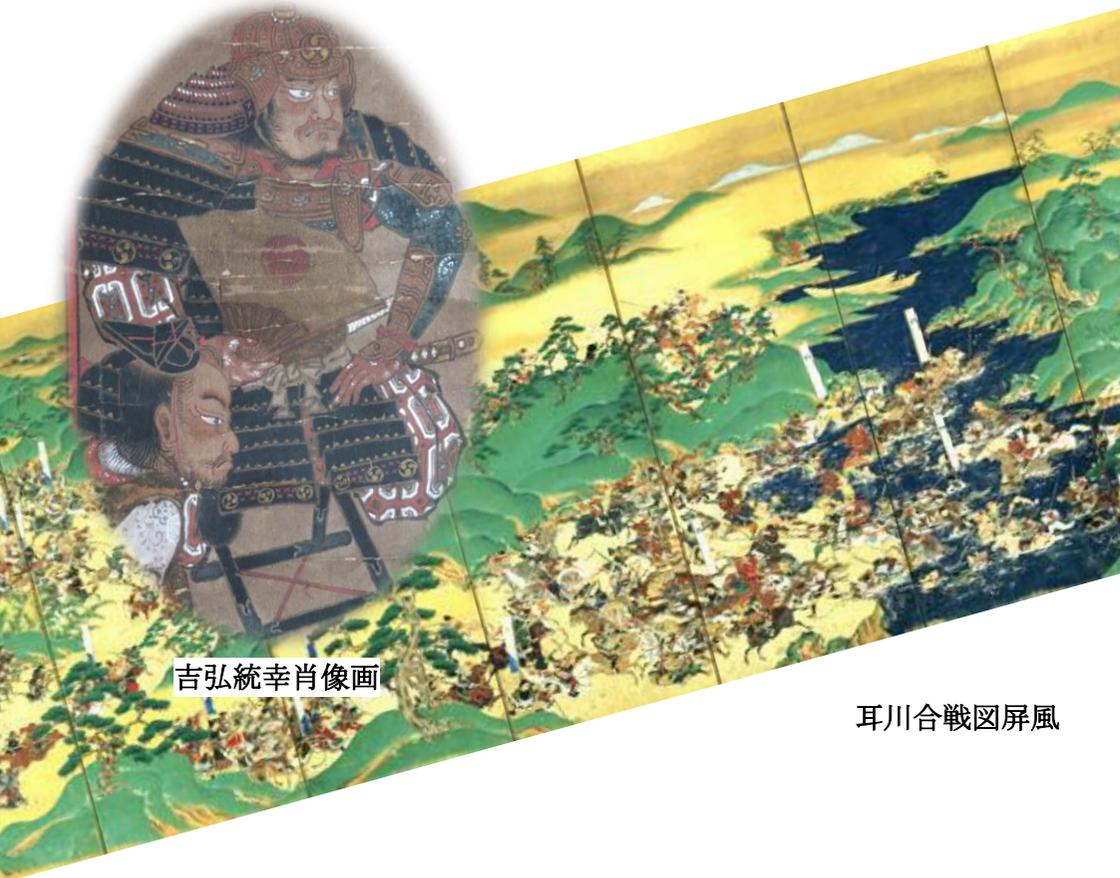


豊後高田の戦国

ゆったり見学コースのしおり



吉弘統幸肖像画

耳川合戦図屏風

平成26年11月18日(火)

豊後高田市教育委員会

(1) 本日の行程

- 09:15 豊後高田市役所高田庁舎東側駐車場 集合、受付
09:30 バスで出発、県立歴史博物館(宇佐)へ。
09:50 県立歴史博物館着。学芸員さんからの説明、見学。

- | | |
|----------------|-------------------|
| ・洛中洛外図屏風：戦国時代 | ・大友宗麟画像：江戸時代 |
| ・綾本著色法華経絵：室町時代 | ・耳川合戦屏風：江戸時代 |
| ・石垣原合戦絵図：江戸時代 | ・大友義統衆討死交名：安土桃山時代 |

10:50 県立歴史博物館発。

11:30 田染荘着。

- | |
|----------------------|
| ・延寿寺の石墨状遺構・堀状遺構：戦国時代 |
| ・延寿寺石殿：戦国時代 |

12:10 ほたるのやかた で昼食。

13:00 田染荘発。

13:20 都甲地域歴史資料展示場着。担当からの解説、見学。

- | | |
|-------------------|---------|
| ・長岩屋住僧置文案：室町時代 | ・吉弘楽VTR |
| ・吉弘統幸肖像画3点：江戸時代など | |

14:10 都甲地域歴史資料展示場発。

14:20 箕城跡伝承地着。担当からの説明、見学。

- | |
|---------|
| ・ゆかりの大岩 |
|---------|

14:50 箕城跡伝承地発。

15:00 金宗院着。

- | | |
|------------|---------|
| ・吉弘統幸の宝篋印塔 | ・金宗院の仁王 |
|------------|---------|

15:40 金宗院発。

16:00 市役所駐車場着。



応仁元年（1467）に、室町将軍の後継者争いを発端に、細川・山名の戦いが激化。合戦は各所に飛び火して、**列島全体が戦乱の世の中に**・・・

公家で学者の一条兼良は『樵談治要』で「当時の守護職は昔の国司に同じといえども、子々孫々につたえて知行をいたす事は、春秋の時の十二諸侯、**戦国の世**の七雄にことならず」

戦国時代のヒーローたち「**戦国大名**」の定義は実は曖昧。

- ①あらかじめ定められた領土を超えて活動する
- ②分国法などを定め、強力な領国支配を行う
- ③独自の世界観『公儀』を持つ

難しい事を言いましたが、個性あふれる「戦国大名」たちによって繰り広げられる、**国盗り合戦**が戦国時代の魅力。



九州にも戦国大名が沢山現れました。

代表的な九州の戦国大名

大内氏 **大友氏** **竜造寺氏** **相良氏** **伊東氏** **島津氏**

戦国時代初期は、山口を本拠にする大内氏と、大友・少貳氏の因縁の対決（馬ヶ岳の戦い・勢場ヶ原の戦い・博多や糸島、飯塚など九州北部で合戦ばかり）が多かった。

大内氏が滅びた戦国時代後期には、**大友宗麟**・**島津義久**・**竜造寺隆信**が大大名に成長して「**九州の三国志**」と呼ばれる状態に。

戦国時代は文化の時代

各戦国大名が、独自に**文化**を取り入れました。

大内氏は京風の文化を好んだだけではなく、中国大陸・朝鮮半島の文化を活かした宇佐神宮の再興を行いました。

大友宗麟は対アジア貿易を積極的に行いましたし、ヨーロッパ人が来るようになると西洋式の武器（フランキ砲など）や、キリスト教を導入しました。





田染荘と言えば、夕日観音から見る事ができる、のどかで美しい水田・・・

だけではありません！！！！

まだまだ奥が深い田染荘

田染荘は、色々な時代の遺跡が重なっているところに最大の価値があります。戦国時代の波は、当然田染荘にも襲いかかります。

真木の古庄氏との相論

田染荘の管理を大友氏から任された烏帽子岳・牧城の**古庄氏**は、数代にわたり田染荘から年貢を取っていました。

ある時、**田染鎮富**は寺社奉行・奈多鑑基に接近し、不輸租権を獲得。しかし、古庄長方は実力行使で年貢を収集してしまい、**相論に発展**しました。

真木と小崎という非常に近い距離で緊張が走った瞬間です。



小崎館（延寿寺）の戦国時代遺構

荘官を出自とする田染氏は、来る戦争に備えて、小崎館を**城郭化**させました（小崎城・小崎堡）。

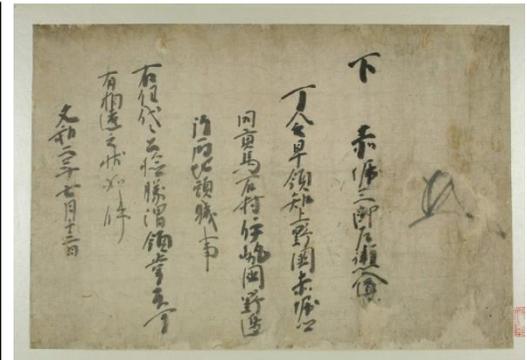
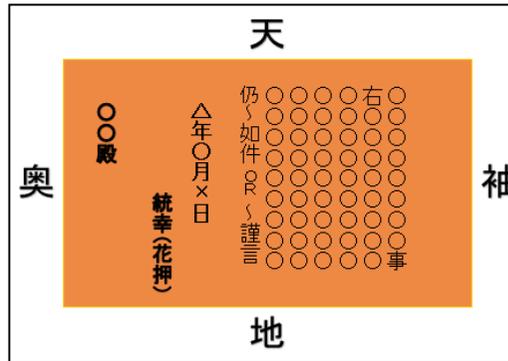
普段はあまり注目されませんが、延寿寺の周りには**石墨跡**や**空堀跡**が張り巡らされています。

古文書は偉人達からのメッセージ

古文書は簡単に言えば、中世の人の手紙です。独特のルールや文体、草書体の文字が読みにくいという事で取っつきにくい分野ではありますが、古文書からは「**歴史的事実**」「**昔の人の考え方**」が分かってとってもおもしろい！

古文書ってどこから読むの？

古文書を読むときに最初に見るのは「**日付**」「**差出**」「**宛所**」の三点。史料集では古文書名に「正和四年六月日沙弥妙覚田畠等配分状」と、上記の内容が整理されています。では、「日付」「差出」「宛所」はどこにあるのでしょうか？



↑スタンダードな古文書の構成

↑「差出」「宛所」はどこでしょう？

面白い！古文書の決まりごと

- ・「闕字」～権威のある物・人の前にスペースを作ります。
- ・「奉書」～家来に「って言ってたよ」形式の文書を作らせます。
- ・「散らし書き」～文字をバラバラに書いた方が風雅だった？
- ・「土代」「案」「写」～下書き用、保存用、観賞用。用途色々。





筆字を読む（基礎編）



古文書を読む上で大事なものは“ヒント”を見つける事！

花押って何？

花押は歴史上の人物のサインです。古文書が効果を発揮するには、この花押が必要です。

花押は、元々「名前の草書」を崩したものを利用していましたが、武家の隆盛に伴って様々な様式のもの考案されていきました。



名前の一字 好きな文字 絵を使う 明朝体

どんなに読めるようになって、活字を持って行こう（一番大事）

パネル展示「都甲地域と吉弘氏」

屋山の頂上に城を構えた吉弘氏は、豊後高田市を代表する戦国武将を多く輩出しています。今年10月にリニューアルしたパネル展示は、そうした吉弘氏の活躍にスポットを当てています。

吉弘氏が活躍した3つの合戦を徹底解説！

・勢場ヶ原の戦い（吉弘氏直 v s 大内軍）

吉弘氏が都甲地域に進出した頃、主君・大友氏は周防国の大内氏と、豊前豊後国境付近で小競り合いを続けていた。当時17歳の吉弘氏直は、勢場ヶ原を進む大内軍に突撃するが・・・。



・耳川の戦い（吉弘鎮信 v s 島津軍）

最盛期を迎えた大友宗麟は、日向方面での島津氏の進出に頭を悩ませていた。そして天正6年に豊後国内の家臣を総動員して決戦に臨む。しかし、山田有信らの籠る日向高城に悪戦苦闘し、都甲地域にも大きな爪あとを残す歴史的大敗北を喫することに・・・

・石垣原の戦い（吉弘統幸 v s 黒田軍）

主家改易後、柳川の立花家に身を寄せていた吉弘統幸は、江戸に向かう途中、かつての主君・大友義統に遭遇する。義統の行く末を案じた統幸は西軍につく事を決意し、黒田官兵衛との大一番に臨む。





寛城跡伝承地

吉弘氏の平時の館として存在が知られる寛城ですが、実際のところその場所は特定できていません。古文書によれば、吉弘統幸が住んでいたのは「**まつゆき村**」であり、「字松行から長岩屋の下側」にあったと考えられます。江戸時代初期には同所出生と思われる立花宗茂関連の記録類に「**寛城**」の文字が見えます。寛城跡伝承地は、かねてより寛城の跡地であると伝えられており、吉弘氏の活躍を偲ぶべく整備を進めています。



↑都甲で生まれた
立花宗茂の肖像

金宗院跡

金宗院は室町時代中期に開基されたとされる寺院で、吉弘氏の菩提寺として知られています。戦後すぐまでは、本堂と庫裡がつながった国東半島特有の建物の配置が残っており、裏手の墓地には**吉弘統幸の宝篋印塔**がありました。



↑金宗院裏手の墓地
左が統幸の宝篋印塔

江戸時代の紀行文に見える「**吉名川悲話**」の舞台にもなっており、何かと吉弘氏との関わりの深いお寺でした。

その他にも・・・

石垣原の戦いのあった**別府**・元々の本拠地国東市**武蔵吉広**にも様々な伝承が残っています・・・

県立歴史博物館（企画展示『九州の戦国』）



九州各所の戦国大名の肖像画や、合戦屏風、古文書などが大集合！国宝『島津家文書』をはじめ、今しか見られない文化財が目白押しの豪華な内容です。

クイズに正解すれば、官兵衛・長政の缶バッジをゲットできるイベントもやっています。

田染荘（戦国時代遺構）



田染荘と言えば、平安時代からの美しい田園風景・・・それだけじゃありません。田染荘にも戦国時代に残された様々な遺跡・石造物があります。今回は戦国時代の田染荘を巡ります。

都甲地域歴史資料展示場（旧都甲小学校）



昨冬にオープンした当展示場ですが、戦国大名・吉弘氏に関するコーナーをリニューアルしました。吉弘氏が都甲地域に来てから、石垣原の戦いで伝説を残すまでの間を深く解説します。

寛城跡伝承地



吉弘氏の居城としては屋山城が有名ですが、平時の館である寛城も存在していました（正確な場所については様々な説があります）。本年度整備した新スポット寛城跡伝承地をご覧ください。

金宗院跡



吉弘氏が都甲地域に来た頃に開基されたとされる金宗院は、吉弘氏の菩提寺として知られています。石垣原の戦いから吉弘統幸の首を持ち帰った僧の逸話「吉名川悲話」の舞台であり、本堂跡の裏手には、統幸宝篋印塔などの供養塔・墓が並んでいます。